

持続可能な発展と国際開発協力（3）

1. 開発と環境：環境クズネツ曲線

前回（4/14）資料参照

- ・環境クズネツ曲線（EKC）仮説
経済成長（所得増加）→環境（汚染）悪化→転換点（Turning Point）→環境改善
→持続可能な開発（SD）
- ・クズネツ曲線（経済成長と所得格差）
- ・EKCの解釈と応用（国際環境協力の効果測定）
- ・汚染逃避仮説（Pollution heaven）、産業空洞化仮説（Industrial flight）Leonard 1988
- ・ポーター仮説（オフセット、イノベーション）Porter 1991
「適切に設計された環境規制は費用削減と品質向上につながる技術革新を促し、そのような技術革新によって企業は環境規制に伴う費用を相殺することが出来ると同時に、世界市場において他国企業に対して競争上の優位を獲得し、利益を得ることができる。」
- ・適切に設計された環境規制と何か→技術基準<排出基準<市場的手法

2. 持続可能な発展：様々な定義

（1）様々な持続性の考え方

Steady State Economics, Stationary Economics:

John Stuart Mill (1848), Principles of Political Economy

「私は、資本と富の定常状態を、保守的な政治経済学者たちの多くが示すようなあからさまな嫌悪感を持って見ることはできない。むしろそうした状態は、総じて、現在の状況を大きく改善するものだと考えたい。実を言うと私は、先へ先へと進もうとして苦闘することが人間の常態であり、互いを踏みにじり、ぶつかり合い、押し退け、足を踏みつけあうことが人類の最も望ましい天性であると考えている人たちが提唱する生活の理想というものに、魅力を感じていない。資本と人口の定常状態が、人類の向上の停止を意味するものではないことは、ほとんど言うまでもないだろう。」

Herman E. Daly (1977), Steady-State Economics

出所： "Towards Some Operational Principles of Sustainable Development," Ecological Economics 2 (1990) 1-6. And, Meadows, D. et. al. Beyond the Limits, Post Mills, Vermont: Chelsea Green Publishing Company, 1992.

「土壌、水、森林、魚など「再生可能な資源」の持続可能な利用速度は、再生速度を超えるものであってはならない（例えば魚の場合、残りの魚が繁殖することで補充できる程度の速度で捕獲されれば持続可能である）

化石燃料、良質鉱石、化石水など、「再生不可能な資源」の持続可能な利用速度は、再生可能な資源を持続可能なペースで利用することで代用できる程度を越えてはならない（石油を例にとると、埋蔵量を使い果たした後も同等量の再生可能エネルギーが入手できるよう、石油使用による利益の一部を自動的に太陽熱収集器や植林に投資するのが、持続可能な利用の仕方ということになる）。

「汚染物質」の持続可能な排出速度は、環境がそうした物資を循環し、吸収し、無害化

できる速度を超えるものであってはならない（たとえば、下水を川や湖に流す場合には、水性生態系が栄養分を吸収できるペースでなければ持続可能とはいえない。）」

Resource Economics

Ecological/ carrying capacity root: MSY (MAC)、MEY

Economics: VWS, WS, SS, VSS

* 前回 (4/14) 資料参照

Eco-development

Eco-development refers to development at regional and local levels, consistent with the potentials of the area involved, with attention given to the adequate and rational use of natural resources, technological styles and organizational forms that respect the natural ecosystems and local social and cultural patterns.

The term is also used to describe an integrated approach to environment and development.

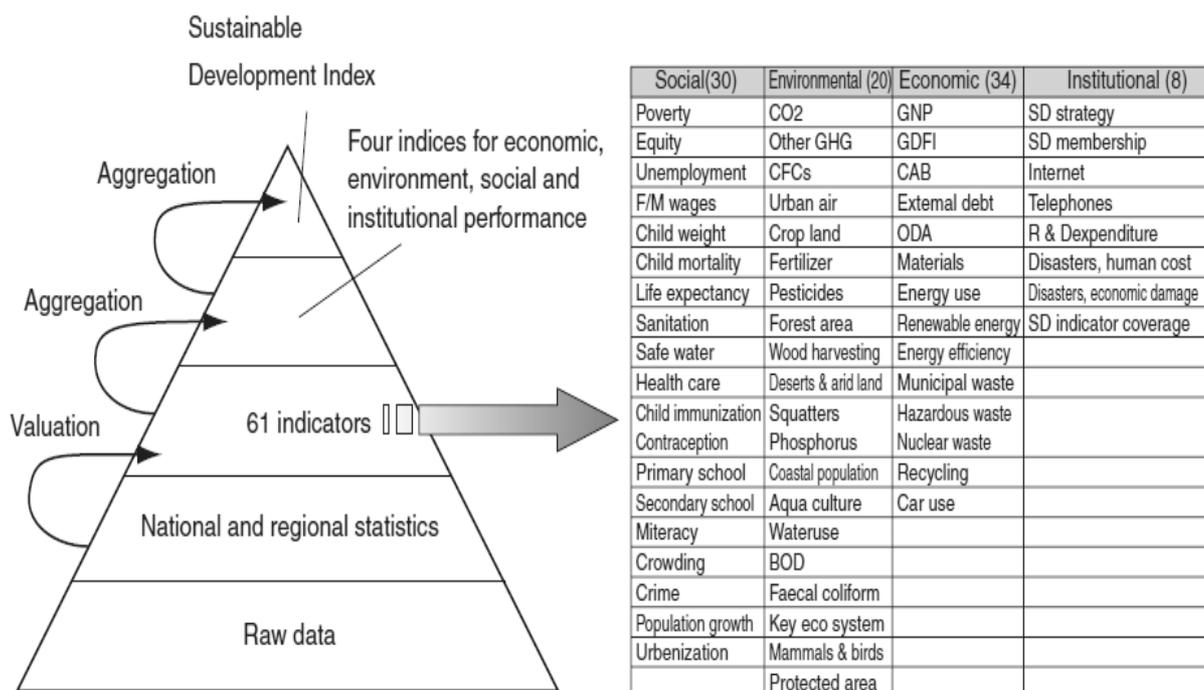
Source: *Glossary of Environment Statistics, Studies in Methods, Series F, No. 67, United Nations, New York, 1997.*

(2) SD 指標

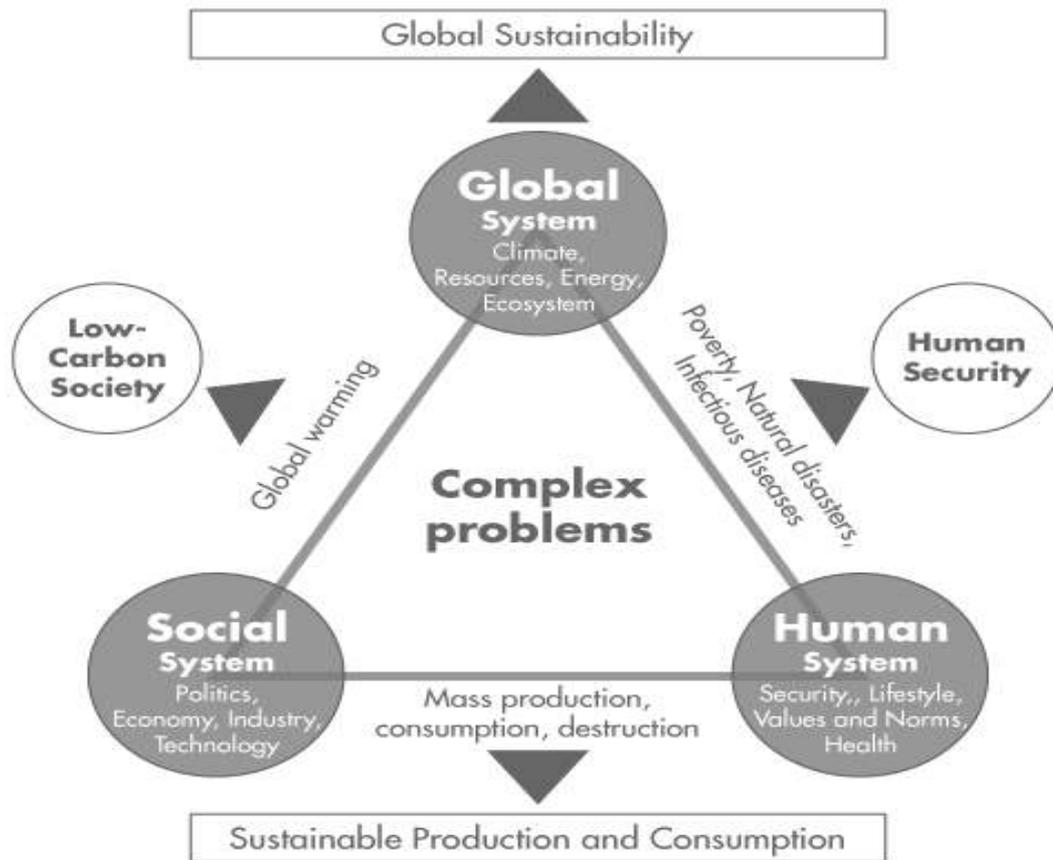
環境・社会・経済

環境・経済・経済・制度

Figure 7 Aggregation between Environmental Indicators and Social Indicators (IISD-Dashhboard)



Source: IISD website



3. 講義日程

第1部 持続可能な発展 (SD) の概念と理論

1. ガイダンス：持続可能な発展とは？ 4/07
2. 開発と環境：環境クズネツ曲線 4/14
- 3-4. 持続可能な発展の指標 4/21、4/28

第2部 途上国の開発政策と持続可能な発展

5. 途上国の貧困と開発 5/12
6. 途上国の開発政策 5/19
7. 途上国の開発と環境 5/26

第3部 国際開発援助と持続可能な発展

8. 国際開発援助の歴史と制度 6/02
- 9-10. 開発援助政策の理論と評価 6/09、6/16
- 11-12. 開発援助と地球環境問題 6/23、6/30

第4部 新たな開発戦略

- 13-14. グローバル・サステナビリティと国際開発協力 7/07、7/14
15. まとめと試験 7/21